

記念スタンプの構成要素とモチーフ ー綿抜研究室所蔵スタンプ帳7冊についてー

内山 彩芽

寺社の御朱印巡りや観光地や駅などで見られるスタンプラリーなど、御朱印やスタンプを押し集めるという行為はよく見られ、趣味の一つとしてもあげられる。このコレクションの対象となるスタンプは、郵便局・鉄道の駅・観光地などに設置される風物を描いたスタンプや、国民的行事・式典・催し物の記念として作成されたスタンプなどである。本研究では、このような記念のための印章を総じて、記念スタンプと定義する。これらの記念スタンプは、作成・使用された当時の文化や象徴、時代の特色を表しているという点において文化的価値を持つにも関わらず、記念スタンプに研究はほとんど見られない。

そこで本研究では、記念スタンプの主題を表現するのに使われる構成要素やモチーフを調査し、主題の種類によってそれらに違いがあるのかを明らかにしながら、違いの有無の意味を考察することを目的とした。

研究方法としては、綿抜研究室が所蔵する7冊のスタンプ帳に収められている記念スタンプの内2,549個を対象に、主題によって記念スタンプを分類し、記念スタンプの構成要素とモチーフのまとまりを抽出・集計する。その際、構成要素は景観要素、非景観要素、文字テキスト、輪郭の4つに分類することとした。

主題によって大きな差異が認められたのは、特に、文字テキストの割合と、モチーフの平均数であった。文字テキストの割合が高くなる傾向にある主題は、次の3つのいずれかの条件に当てはまっていた。1つ目は、日付や電話番号、住所など文字テキストを使用しなくては伝達できない情報を含む場合、2つ目は詩歌のように文字テキスト自体が主題を表す場合、3つ目は、知名度の低い要素に対し、理解のための補助的に添えられる場合である。モチーフに着目すると、単一のモチーフで構成されるスタンプは、風景、歴史、物語、絵といった、一場面を切り取り図像化する主題に多く見られた。複数のモチーフを使用したスタンプは、都市や遊覧など、主題を想起させるものが複数ある主題に多く見られ、コラージュとして図像を形成していることが明らかとなった。

今回研究対象としたのは綿抜研究室に所蔵された7冊のスタンプ帳に収められた約2,500個の記念スタンプと限定的で、記念スタンプの全般について言えるものではなく一つのサンプルにすぎない。今回対象としえなかった他の記念スタンプに関しては今後の課題とする。

(指導教員 綿抜 豊昭)